

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170100861		
法人名	有限会社ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 2階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1-1		
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100861-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームではレクリエーターを中心として職員一同、入居者様の(ADL)日常生活動作の継続に努め、生活の中に笑顔があふれメリハリのある毎日を過ごしていただけるようなレクリエーションの企画を実施致しております。レクリエーションを通し、入居者様のご家族様・地域の方との繋がりを大事にしております。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームソレイユ」は、区役所や消防署、地下鉄・市電駅などが近い幹線道路沿いに位置し、石山通内科クリニックと1～5階に介護付有料老人ホームが併設されている。休日夜間を含めた24時間連絡体制の確保と緊急時の対応など、クリニックとの連携が図られ医療体制が整っている。地域との連携では町内会長と隣接したコンビニエンスストアの協力により、緊急避難所の支援依頼に至っている。更に今年初めて住民のサポートにより利用者が町内会盆踊り大会に参加している。その事は高齢化で参加者が減少し中止せざるを得ない地元祭典の継続の一助ともなった。1階レクリエーション&機能訓練室「集いの場」は、機能訓練はもとより、利用者が地域資源と繋がりが有意義な時間を過ごす場となっている。民謡ボランティアや音楽教育機関の学生が訪れ、楽器や歌、リズム体操などの療法的要素を盛り込み実施している。また、児童デイサービスの子ども達を事業所のハロウィンパーティーに招き、歌を歌い合うなど交流を行っている。毎日午前の体操や午後のレクリエーションメニューが多彩であり、月間計画を立て工夫をもって提供している。内部研修を毎月開催し、医療と介護に携わる専門職に向けた「フレイル」(高齢者の筋力や活動が低下している状態)の理解と予防などをテーマに学んでいる。ホーム長、各ユニットリーダーが職員を牽引し、利用者の喜びは職員自身も同じ喜びであると情動を分かち合い、「家族になろう」の理念の実践に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族になろう」を理念にホーム長と職員はその理念を共有。地域の中で、自立・ゆとり・受入れの実践をしております。	事業所が目指すサービスのあり方や根本的な考え方を「家族になろう」という文言に込め、理念に掲げている。各ユニットの事務室に理念を掲示し、毎朝礼時に理念と共に身体拘束禁止11項目を唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のレクリエーションを通じて、近所の人たちとのコミュニケーションが出来るように努めております。	町内会の夏季祭りや周年行事に参加している。児童デイサービスの子ども達や職員を事業所の催しに招き交流している。民謡のボランティアや音楽の専門学校の方々が歌や楽器、リズム体操などで訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設はホームページにて情報を発信し、相談などは窓口・ホームページ上から受け付けており、地域貢献に活かされております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設の代表・家族・町内会長らが出席し、開催。報告・意見をサービスに反映させております。	会議ではレクリエーションの見学など実際の生活状況を見てもらう機会を確保している。各ユニットにおける活動報告、研修会の内容説明、防災等施設運営に関する事項、レク実施状況や今後の予定などが協議されている。案内、議事録を関係者へ送付している。	議事録は職員教育の一環として職員が担当となり作成している。調査では議事録の整備、その検討について協議を行った。今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報交換に努めております。	市や区の担当者とは、運営上の課題解決などについて意見を仰いだりアドバイスを得ている。利用者の希望、状態に即した移行支援を関係機関と情報共有し、実施している。利用者の認定更新時の伝達、連携が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束会議を開催し、身体拘束の見直し、利用者様を第一に考え、ケアの取り組みに努めております。	身体拘束適正化に係る指針を整備し、理念と方針を明示している。身体拘束予防マニュアルがあり、適切な支援のあり方が示されている。身体拘束適正化委員会を毎月開催し、利用者の状況を確認している。今年はこれらに関わる内部研修を3回開催した。安全対策上、玄関と各ユニット玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での研修会で職員は虐待について学び、理解をして虐待防止に努めております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学び、理解し、活用できるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退去時には十分は説明を行い、疑問点に答え納得していただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見を聞くための箱が設置されており、それらを基に運営に反映するように努めております。	家族の来訪時にシート記入により意見などを出してもらう仕組みがあり、寄せられた内容はリーダー会議で検討し、運営に反映させている。日常生活の感想や着替えの事、お礼の言葉などの意見や家族から利用者の意向についての伝達がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で行われる会議等で常に意見を聞き、反映されております。	毎月の内部研修会終了後にユニット会議を定例化し、職員が議題を持ち寄り協議している。物品の発注方法や利用者への対応など、改善に向け意見交換が行われている。現在、個別面談はホーム長、各ユニットリーダーが行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力・勤務状態の把握・有給及び労働時間が超えた場合には残業代の支給があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会に恵まれ、職員は徐々にレベルアップしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は施設外の研修会などに参加して、ケアの質の向上に取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を基に本人との会話を多く持ちながら寄り添うことで、気兼ねなく本音を話せるような雰囲気を作っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様を通し家族が気兼ねなく話せるようにゆったりとした対応でしっかり話を聞かせていただく心構えを持っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の人格を尊重し常に利用者様の立場に立ったサービスの提供を基に、ご家族様と一緒にひとつひとつ相談し流動的に対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のことを一番に考え、フロアスタッフでユニット会議にて問題点を挙げ、実行しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ささいなことでもご家族様に相談することを忘れずに、ご家族様と一緒に検討するように心掛けております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、本人の希望が叶うように方法を検討しております。	昔近所に住んでいた、また仕事で一緒だった方々が訪れている。友人とタクシーで外食に出かける利用者がいる。アルバムや本など本人の好きな物や事柄で回想し、懐かしい思い出に触れたり会話を引き出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係が穏やかである為に、トラブルを未然に防ぐように努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時も相談し合い、入居者様ご家族様に納得して頂ける様心がけ、退去後も相談して頂けるような関係を築くように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の好むこと、喜ぶことを見つける為にコミュニケーションをとる時間を大切にしております。	利用者の思いを大切にすることを心がけ日常の会話の中から本人の好む事、喜ぶ事を見つけ、関わりの中で何を求めているかを見出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からは勿論、ご家族からも積極的に情報を得る為にコミュニケーションを図っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日偏りなく全員の様子を知る為、コミュニケーションをとる時間を大切にしております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様との会話を大切にし、小さな情報を逃さない。スタッフ間での情報交換を強化しております。	基本情報の身体日常チェック表を3か月ごとに更新し、フロア会議にて職員全体で意見交換しモニタリングを行っている。本人、家族からの意向や意見を反映させ、利用者の暮らしを支える計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を漏れなく共有する為に、申し送りノートやケース記録を再確認しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応方法を全スタッフで話し合い、実践・評価を繰り返しながら適切な対応を探求しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	段ボール回収をはじめ、散歩の際には近隣の方とのあいさつから交流を深めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望を優先しております。	本人・家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めている。週1回、同ビル内の医療機関の医師による訪問診療、訪問歯科の医療体制を整備している。他科受診の際は、主治医が受診先医療機関に内容を伝達している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携をとり、相談し報告して適切な指示を受けて対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師や入院先の医療機関に情報提供し、安心して治療し、早期に退院できるよう協力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師の判断に基づき、当事業所と入居者様、ご家族様と話し合いを持ち方針について支援できるように取り組んでいます。	重度化対応に関する指針を整備し、家族とは状況の変化に応じ対応方針の共有を図っている。かかりつけ医である協力医療機関が1階にあり、これまで数件の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、研修会やミーティングなど日頃から実践力を身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に関しては、毎年防火訓練や避難訓練を行っています。業者の方を招いて説明を受け、身につけています。	今年度は6月と11月に日中・夜間想定の大規模避難訓練を実施し、防災センター業者の協力を得た。自家発電機、食糧、水など災害備蓄品を確保している。地域の方々へ訓練参加について呼びかけている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重してプライバシーに配慮した声掛けや対応しております。	職員はコミュニケーション技法やプライバシー研修を受け、利用者の人格を尊重して優しく寄り添っている。利用者の個人記録も適正に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から寄り添ったケアの中から気兼ねなく思いや希望を表現できるような温かく、ゆったりとした姿勢で見守っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に寄り添うことで、本人のペースに合わせ、危険以外否定せず希望に沿って支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に起床時は身だしなみに気をつけている。おしゃれのアドバイスや会話の中からも取り入れております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや意見を聞きながらメニューを作成しております。	利用者のリクエストを厨房に伝えながら、管理栄養士が作成した食事を嚥下しやすいよう工夫して提供している。外食ではレストランを利用して利用者ごとに自由に食べたいものを選んでいく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日記入、利用者様一人一人の状態に応じて確保の声掛け、管理栄養士の指導による献立作りをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に利用者様一人一人の口腔内に応じたケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンを把握、寄り添い、見守り、声掛けにて誘導を行っています。	全員の排泄記録を作成し、しぐさや経過時間を観察して誘導している。利用者によっては夜間帯も起こしてトイレに誘い、羞恥心に配慮して失敗が少なくなるよう個々に沿った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(牛乳や水分の摂取)や体操、廊下歩行、トイレ時のお腹のマッサージなどに取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様に不穏を感じさせることなく、その人に合わせ、楽しく入浴していただけるように配慮しています。	一人平均週2回の入浴時間は、好み入浴剤を使い利用者ごとに湯加減を調整している。特殊浴槽もあり重度でも気持ちのよい入浴ができる。同性介助の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣を把握して、状況に応じて安心して休息したり、良く眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の薬の管理を行い、薬の目的や用法容量についてはリストを作り理解をしています。		
48		○役割、楽しみなどの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい雰囲気作りから始め、歌たったり、体を動かす。気分転換にて紙芝居を行っています。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの連絡・希望により家族同伴にて外出実施しています。	日々の散歩に出かける利用者は、職員同伴で近隣の公園でベンチに腰かけ休憩をとりながら周辺を散策するなど利用者のペースに合わせ外出の支援をしている。花見や買い物、外食に出かける機会もあり、家族と墓参に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて管理して、状況に応じてその都度必要な金額を出しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度、ソレイユ通信を送り近況を報告している。電話の希望があるときは出来る限りの支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除を行い清潔を保っている。強い日差しがあるときにはカーテンなどで日陰を作る等の配慮を行っている。入居者様中心と常に考えています。	屋外の光が差し込み明るく整頓された居間は、季節の飾りや利用者の作品を飾り暖かさが感じられる。午前は居間でラジオ体操、午後は1階の機能訓練室で日替わりのレクリエーションを利用し、体力低下を防いでいる。居心地のよい共用空間で利用者が集い暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの配置は入居者様同士の相性、または個性豊かな配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安全を確保しつつ、本人の希望される配置にしています。	自宅で使っていた馴染みの物品を持ち込み、ポスターや家族の写真を掲示し、心が落ち着き安心して過ごせる部屋になっている。換気システムが劣化している箇所は交換準備を進めているところである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事や出来る可能性がある事を維持、向上できるように努めています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170100861		
法人名	有限会社ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 3階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1-1		
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100861-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームではレクリエーションに力を入れております。毎月行われている季節ごとの行事に加え、毎日のレクリエーションではリハビリテーションを交えた、リズム体操・口腔体操・パラバルーンレクを実施しています。残存機能の保持・向上を全館あげての目標として掲げ、日々業務にあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームでは、理念の柱として「家族になろう」という言葉を入れている「家族」こそが生活の基本と考えて地域生活での中核であり最小単位として捉えている。当ホームへの地域での理解と友好的な関係、その関係の持続性、地域からの協力・支援を理念の2本目の柱とした。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(盆踊り)や近隣での買い物、外食レク等の実施により日常的に交流を図るよう努めている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページでの情報の発信や地域町内会との交流により、認知症の人への理解や支援の方法、地域の人々に向けて活かしている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、実際の様子・生活を見ていただきながら利用者の状況について報告。頂いた意見をもとにサービス向上に活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報提供に努めている。運営上問題点がある時は、市町村の担当の人にアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回は身体拘束委員会において各フロアの状況を把握することと、内部研修により更なるケアへの理解を深められるよう努めている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内外での研修会で学び、理解をして虐待防止に努めている。毎月看護師によるボディチェックをおこなうとともに、職員は日々の入浴での様子観察と異変時には報告することとしている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学び・理解して活用できるように努めている。実際に成年後見制度も活用されている利用者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・入居時数回にわたり説明し、本人・家族のニーズをお互いに理解した上で契約につなげている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催、又は面会時の記入用紙にて、ご家族の要望等を職員・管理者が把握し反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接意見・提案できるように定期的なフロアミーティング・各フロア個別のミーティングを行い、いつでも聞ける体勢作りを心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇格・昇給・手当等の支給、キャリアパス、降格・減給もある。休憩室の設置。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講した職員はその後内部研修で内容を報告する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設外の講演会への出席 ・外部から講師を招いての研修会 ・中央区のスタッフ研修会へ参加し課題発表		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談での聞き取りをもとに、入居後も職員全体でフロアになじめるよう、座席の配慮・周りとのコミュニケーションのサポートに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、職員が家族とのコミュニケーションをとることに努め、情報の交換や、不安・要望を確認し理解することにより関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人・ご家族様との面談と聞き取りにより、どんな支援が必要とされているか見極め意見が反映できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全て職員がやるのではなく、できる事は手伝っていただくこととし、茶わん洗いや洗濯物たたみ等、皆で助け合い生活していると感じる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に「本人」「家族」「職員」が力を合わせて初めて介護が成り立つということを必ず説明している。但し、一部の家族は「入居させっぱなし」という家族があるのも事実。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の受入れや手紙・電話での馴染みの方との交流は絶つことなく行われている。外出することも出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いのプライベートも守りながら孤立しないよう、フロアへの促しや他入居者との交流が図れる様、レクリエーションの開催、コミュニケーションの橋渡しに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、他の病院に入院後も面会に行っている。 退去後、家族の経営しているお店を利用している。 家族が所属しているサークル主催のコンサートに出席。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴・思いを大切にすることを心がけ、日常の会話の中からも希望・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人からの聞き取りにより、どのように生活してきたか、どのような人生だったか、または日々の会話の中から汲み取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロア職員からの聞き取り、日々のケアの中で一人一人の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月に1回の運営推進会議時や面会に来られた家族との会話からの、意見や要望などを基に本人に必要な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、フロア共有の連絡ノート、朝のミーティングで情報を共有しすぐに問題に取り組めるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族関係・友人関係など本人を取り巻く人間模様や環境・背景、それらの変化に対しても対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる楽器や歌などの催しがあり、楽しまれ、定期的に来て楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度の訪問診療があり、本人・家族の希望に沿い、適切な医療を受けられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時のボディチェック、また日勤・夜勤帯での変化や気づきは担当看護職員にすぐ伝え、指示を仰ぎ、受診等の対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図り、入院退院に向けて情報共有し、計画準備をさせていただき、いつでも安心して利用者が治療できる様、関係作りを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・看護師・介護スタッフと本人・ご家族様とで、入居時に、方針・希望を皆で確認し慎重に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	朝・タのミーティング時において、各フロアリーダーの役割を確認するとともに、年1回研修会を開き、急変・事故発生時の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、災害時の対応確認の為の講習会を開催し、利用者を安全に非難できるように訓練し、日頃より地域との交流を図るよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に心がけ、挨拶・言葉遣いなど考えながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望等は普段の会話の中からくみ取り、自身で発せない方には選択してもらうことにより自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースにあわせ押し付けることなく出来るだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の訪問理美容も本人の希望をもとに注文し、日常の洋服も着替え時に本人と相談しながら決めている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材・行事ごとと食べることが楽しみとなるようメニューが工夫されている。片付けと準備に関していただくことで食事への興味につながる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、IN/OUT、排泄を記録し状態の把握に努めている。栄養バランスは管理栄養士のアドバイスを受け献立表で管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身でできる方への声掛けと、毎食後の口腔ケアの実施・訪問歯科の検診等により口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を用い、本人の排泄パターンを把握し、声掛けを工夫しながらトイレでの排泄につなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分の提供、水分補給の促し、歩行訓練への参加等により予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けにより拒否される方は次回に変更したり、入浴好きの方の時間の配慮など、1人1人に合わせつつ計画している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調や習慣に合わせて声掛けや促しをし、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・用量についてのリストを用い、管理している。服薬時の職員間での確認、口腔内の目視で確実なものへと努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりを丸める、食器を洗う等それぞれに役割がある。居室内の清掃をされる方、TVを見る方など生活歴を活かした支援をしている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は季節ごとの行事の中にも含み、入居者様の希望も取り入れながら出掛けられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かっているが外出時・通院時、本人の希望に応じ使用することが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外からの電話の取次ぎ、手紙のやり取りは自由にできる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には安全を配慮しながらも季節を感じられる飾り付けや、窓からの景色で季節を感じていただける様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫しながら会話を楽しむこと、窓の外を眺め過ごす。思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までの生活で使用しなれた物や好みの物を希望により配置し、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下幅は広く、車イスの移動も安全。トイレ・廊下・浴室の手すり配置、ナースコールの設置など、安全重視で自立生活が送れるように工夫されている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170100861		
法人名	有限会社ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 4階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1-1		
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100861-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設において、利用者様のADL向上に努めております。その成果もあり、半年以内に車イスの人が自分で歩けるようになりました。 毎日行われるレクリエーション・リハビリは個別対応としています。利用者様個人にとって生活しやすい環境作りにも力を入れ、心身ともに安らぎのある空間を提供することを心掛けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様目線で「家族になろう」という理念を基本柱としている。実践として朝・夕礼にて唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏季のお祭りに参加、町内会創立50周年祝賀会出席し地域の一員として交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と多くの交流を持ち、認知症の人への理解を深めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、包括支援センターの職員様・ご家族様へと活動報告をしている。評価・意見をいただきサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者と運営上で疑問点や相談等ケアサービスの取り組みについて、助言・協力・情報提供していただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地条件の環境もあり玄関施錠を設置し、安全を確保している。身体拘束委員会を開催し、拘束に対しての意識向上を高め職員へ周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修会において高齢者虐待防止について勉強会を開催。毎月、身体拘束委員会で虐待行為について学ぶ機会を設けている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について成年後見制度を活用されている利用者もあり、内部研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度の勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に締結・解約・改訂等の説明を十分に行い、利用者様のご家族の理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催、又は面会時の記入用紙にて、ご家族の要望等を職員・管理者が把握し反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議開催にて情報提供を行い、意見・要望を運営に反映させている。家族様来訪時に日常生活の質の向上に向けて個別支援の提供の旨を伝えて、意見・要望を伺っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議ではリーダー会議・フロア会議を定期的に行い、運営等に関する意見提供を聞く機会を設け、反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修への参加を通じ、個々の知識・技術向上に努め、当施設において実践トレーニングを日々行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市中央区内のグループホームでの定期的な活動報告、勉強会への参加等でサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、コミュニケーションを通じ本人の要望・不安を傾聴する。気づきの姿勢で、その方の思いに寄り添いよい関係性を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で利用者様の情報を把握。家族様の不安や要望を受け入れる態度を整え、安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアサービス提供する上で、現在必要としている支援は何かをモニタリングし、家族様・本人の意見を反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ソレイユ理念に基づき、利用者本人の自由な生活のあり方を支え、職員はお手伝いをさせていただくという意識の中、生活をともに過ごしていくよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪の際、日常の様子や身体の状態について報告・相談し、月1回のソレイユ通信を通じ安心して生活できます様支援させて頂いている旨を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にされてきた思い出をアルバムを通じ一緒に語ることで喜びを共感し、ご家族様・知人様の面会の場を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内の食堂自席の配置に工夫をし、関係性において調和が取りやすい様に配慮し、レク・行事などに参加をしていただいている。利用者同士の交流の場を設け、心身ともに、活気のある生活となる様に支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院・退去された契約者様に対し、お見舞い・お手紙を通じ、相談や支援をフォローさせていただき、当施設の対応を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関りの中で、本人の希望や意向にそえるよう職員の意識・対応に重きを置き、日々の生活から何を求めているのかを把握する為にコミュニケーションに意識をおいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供開始にあたり、家族様・本人より生活歴、生活環境の聞き取りをさせていただき、その方らしい生活を営まれるよう情報収集・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護・看護ともに連携を図り、心身ともに利用者様の状態を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、家族様・本人からの要望・意見を反映し、各フロア会議にて、その方の現状・ニーズに適した支援や計画をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録、申し送りノート、全体朝礼等で利用者様の日々の様子を職員間で共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを通じ、日々の個別記録で利用者様の変化を把握できる為、その時に応じたニーズにそっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる催しの活動、町内会行事の参加での地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回の訪問歯科、24時間体制の協力医療機関により、日常の健康管理・処置がされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調管理は介護・看護により連携を図り、朝礼等で情報を共有している。異常時は医療機関へ受診。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図り、利用者様の情報・状態を共有。協力をいただき、入院・退院に向けて計画を準備させて頂ける様関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設医師をはじめ、ご家族様との話し合いと経過方針について真摯に取り組む姿勢である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常利用者の身体病状についての把握に努め、特変に対するの対応手順をマニュアル化し、救急搬送時や事故発生時の対応についての手順が整っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署関係者立合いのもと、避難訓練を行っており、地域との協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接遇、個人情報の取り扱いに注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや行いたいこと、自己決定ができるよう、日頃の関りで共感している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の個性を尊重し、その方の習慣性を大切に思い、日々の生活を穏やかに過ごしていただくよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洋服選びやお化粧、理美容を利用したヘアカラーの変更を楽しまれている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	支援の一貫として、食事の準備・味付け・後片付け等、利用者様と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成メニューに従い調理を行い、バランスのいい食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科希望者は定期口腔ケア・歯科治療を行っている。毎食後の口腔ケアは磨き残しのないよう最終チェックを職員で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、トイレ誘導を行っている。排泄ペースを把握する事で、汚染の回数を減らし、自立支援に繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取の調整・繊維質を含む健康食品を利用されている方もおり、リハビリを加え、運動量の管理も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせた入浴日・時間帯等の希望にそっている。室温・水温の調整を行い快適に入浴していただくよう、入浴剤を投入。風邪等により入浴されない方には清拭対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリをつけていただくため、運動と休息を個々に取り入れている。夜間の安眠へと繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のダブルチェックにより誤薬予防に努め、個人ファイルに薬表を配置し用法・用量に理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習慣や生活歴を知ることで、その方の役割や楽しみを支援することができる。個々の希望にそい家事仕事や趣味等を楽しんでいただくよう支援をしている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにレク行事を企画し、外出の機会を設けている。日常の外出は天気の良い日に散歩に出掛けしている。ご家族様との外出も楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内金庫にて金銭管理をしており、必要希望に応じ対応。買い物代行も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡等の手段、電話・手紙等は希望時には職員により、やり取りできるよう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間として安全に利用して頂くため、清掃や設備に配慮している。季節感を取り入れる工夫として、行事の写真、飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ソファーにより皆様が会話ができる空間があり、1人で過ごせる空間も、椅子等を置くなど配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人希望の馴染みの物、使い慣れた物を活かしつつ、移動時の動線確保に配慮をし最小限の装飾をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前にはご本人の写真や好みの飾り付けを施し入室しやすいように工夫。廊下には手すりを設置し自力歩行しやすいように工夫し、職員で見守りを行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ソレイユ

作成日：令和 2年 2月 19日

市町村受理日：令和 2年 2月 25日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の議事録の書式について ①参加者の氏名の記載項目がない ②参加者の役職等の記載項目がない ①②について記載項目がなく、参加者の情報が不明瞭	①②について、運営推進会議の参加者の項目を明瞭にする。	運営推進会議の議事録の書式の変更を行う。	令和2年 3月15日
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。